



TITLE:

岡先生への思い出と感謝

AUTHOR(S):

藤村, 泰司

---

CITATION:

藤村, 泰司. 岡先生への思い出と感謝. 西洋古典論集 2001, 別冊: 73-73

ISSUE DATE:

2001-01-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/68721>

RIGHT:

## 岡先生への思い出と感謝

藤村泰司

あの大学紛争のさなか、当時マインツから帰られた岡先生から「オデュッセイア」を教わりました。それも小倉町の松平先生宅の隣の空き家で芦川さんと2人で2回だけでした。今から考えますと本当に美しい思い出です。

「エリニカ」では本当にお世話になりました。教室で「講義」にも出席下さいましたこともあり、十周年記念会ではパーティーの際、懇切なお言葉を頂きました。そして、エリニカは98年に開講二十周年を迎えました。

11月に記念会を行い、その際それまで2回も岡先生はご入院され、退院されて間もなくでした。記念会でのお話をかねてよりお願いしておりました。しかし、ご体調が芳しくなく中務さんに代読原稿を、そして私にまでお送り下さいました。そして、当日、私が会場の入口近くで、もの思いにふけりつつ座っていましたところ、岡先生御夫妻が入って来られ、本当にびっくりするやら感動するやらの気持でした。そして、開会しました。その場にはエリニカと京大西洋古典研究室の方々が大勢出席して下さいました。初めに私の簡単な挨拶を申し上げた後、頂いた先生のお話は非常に有難く、内容は感動的で充実した別文のような長いものでした。

そして、岡先生は今年3月、若くして帰らない人となりました。お通夜は激しい雨でした。翌日、お葬式はスカッと晴れていました。まさに先生が永年、深い研究生活の後、光輝く功績をあげられたようでした。本当に個人的にもエリニカでもご迷惑、お世話をおかけしました。

衷心よりご冥福をお祈り致し、感謝とお礼を申し上げます。

10月31日